

# かしば つながる通信 第5号

つながりが続く、広がる、かしばの活動

発行元 香芝市介護福祉課 / 香芝市社会福祉協議会

〒639-0251 奈良県香芝市逢坂一丁目374番地1  
(香芝市総合福祉センター内)

かしばし社協HP <https://ka-shakyo.or.jp>

☎ 0745-76-7107 ✉ info@ka-shakyo.or.jp

## 新しい活動が続々スタート!!

猛威を振るった新型コロナウイルスも、感染症法上は季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられ、全国的にも香芝市内でも社会活動が再開されつつあります。

かしば つながる通信第5号では香芝中学校区担当第2層生活支援コーディネーター(SC)の荒木が新たな取り組みを始めた団体を3つ紹介します。

### 逢坂福祉推進委員会

#### 【逢坂】

〈人口〉4235人(世帯数)1760世帯  
〈高齢化率〉22.10%

(令和4年5月31日現在)

最初に紹介するのは逢坂地域で活動する「逢坂福祉推進委員会」です。

これまで、逢坂福祉推進委員会では赤い羽根共同募金の活動や、小学

生の登下校の見守り、地域で行われる「火の祭り」でぜんざいの炊き出しを行うなど発足から27年間、活動されてきました。

#### ふれあいサロンをスタート

新型コロナウイルスの流行が続く令和3年。「このままでは地域の高齢者がさらに孤立してしまう」という前会長坂本氏の思いをきっかけにサロン活動を計画しました。

しかし感染拡大が続く中で思うようにすすみませんでした。それでもSCを交えながら自治会や老人クラブとの話し合いを重ね、令和5年4月、吉田新会長のもと、老人クラブ逢坂寿老会が行ういきいき百歳体操終了後の時間を使ってようやくふれあいサロンをスタートすることができました。

「地域に根付いた居場所になってほしい。」と吉田会長は話します。



#### SCの活躍

逢坂福祉推進委員会では地域の理解が得られない中でも焦らず、各種団体との話し合いを重ねたことで新たな活動をスタートすることができました。

このサロンは自由に出入りができ、体操後に一服だけ帰るもよし。時間いっぱいまで友人とワイワイする

のもよし。とても明るい雰囲気です。生まれているのが素敵だと感じています。

### アロハの会の結成

#### 〔南良福寺住民交流推進会〕

#### 〔南良福寺〕

〈人口〉1047人(世帯数)468世帯  
〈高齢化率〉39.16%

(令和4年5月31日現在)

次に紹介するのは南良福寺地域で新たに発足した「アロハの会」(南良福寺住民交流推進会)です。コロナ禍前は南良福寺ふれあいサロン世話人会として、いきいき百歳体操と終了後のミニミニサロンを開催してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大以降は地域の公民館が使用できなくなり一切の活動が制限されてしまいました。

それでも代表の米永さんは「もと地域内に世代を超えた交流が必要だ」と考えることをやめなかったそうです。

そして令和4年11月、5人の仲間とともにアロハの会を発足させました。

#### 南良福寺新聞の発行から

#### 気になる会議へ

アロハの会では活動の手始めに南良福寺新聞の発行に着手しました。これは地域には様々な団体や活動があることを地域住民に知ってほしいとの思いから生まれたものです。

新聞は4面で構成され、アロハの会、自治会、老人クラブ常磐会、鎌田小学校コミュニティの記事をそれぞれ掲載しています。



この新聞の発行にあたっては自治会や常磐会の協力が不可欠だったので、SCを交え3団体で話し合う場が設けられました。南良福寺地域で活動団体各位が一堂に会することは初めてで、「地域にとって歴史的な日」と米永さんは語ります。

話し合いで各種団体に合意を得て、5月27日に記念すべき創刊号が発行されました。

今後はこのような話し合いの場を定期的に設け、地域の気になることを話し合う場として活用していく予定です。

#### 地域住民の特技を活かして

6月23日には集会所を拠点とし、地域に住む方の特技の披露を通じて住民交流のイベントを開催されました。イベントには子どもを含めたおよそ40名が参加し、ハーモニカや三線の演奏に加え、手品や絵本の読み聞かせ、紙芝居など会場は大いに盛り上がりしました。

裏に続く

●SCC2021

同じ地域に住んでいても、その方の特技まではなかなか知らないものです。地域の方の特技を活かしたイベントを開催することで、お互いのことをさらに知る機会となり、新たなコミュニケーションのきっかけにもなるのでとても良い取り組みだと思います。

また、地域の各種団体が話し合うことで新たな活動や横のつながりが生まれたように感じています。このような話し合いの場を今後長く続けられるようにサポートしていきたいです。

鎌田ふれあいサロン

【鎌田】

〈人口〉2495人 〈世帯数〉1092世帯  
〈高齢化率〉27.09%

(令和4年5月31日現在)

最後に紹介するのは「鎌田ふれあいサロン」です。鎌田地域ではこれまで、自治会、婦人会のすみれ会、老人クラブの長生会が中心となっていていきいき百歳体操など、地域で活動を行ってきました。

百歳体操の後や、すみれ会が実施するヨガの後に、住民同士で交流ができないかと、すみれ会の吉川さん、長生会の石田会長より相談があったことをきっかけに、地域内での話し合いを経て、長生会の石田会長が代表を兼ねる形で、令和5年5月鎌田ふれあいサロンを結成、サロン活動がスタートしました。

—地域の声—

サロンにお邪魔すると25名ほどの方が参加されていました。石田会長は「百歳体操やヨガなど、すでに集まっている場所に交流の場を用意することで、負担感なく始めることができた」と話します。

サロンに参加した方にも話を聞くと、「家にずっといても仕方ないし、こうしておしゃべりする場所があるのはうれしい」「百歳体操が終わってすぐに帰るよりも楽しくなってきた」と喜ばれている様子がうかがえました。



●SCC2021

1年ほど前に鎌田地域に引っ越ししてきた女性Kさん。当初は友人もおらず寂しく過ごしていたそうです。SCCに相談してくださったことをきっかけに地域の活動に参加することで友人ができ、地域にも馴染んできたようです。サロンでも友人と楽しそうにお話しされている笑顔が印象に残りました。

まさに地域で孤立することを防ぐサロンの意義だと感じました。

3つの団体を取材して...

今回は3つの団体の新たな取り組みを紹介しました。

地域の中で「話し合う」ことが新たなつながりや取り組みが生まれる

きっかけになっていました。

また、取材をしている中でたくさんの方にお話を聞かせていただきましたが、皆さん明るく、地域での生活を楽しまれていることに気が付きました。こうした取り組みが地域を元気にし、そこに住む一人ひとりが健康で長生きすることにつながっているのだと強く感じました。

この他にも地域の中にはたくさんつながりやさりげない支え合いが存在します。今回ご紹介した団体以外にも「うちの地域でこんな場所や取り組みがあるよ」など、さまざまな情報を担当SCCにぜひ教えてください。

チームオレンジ活動中!!

認知症は誰もがなりうるものであり、すべての人にとって身近なものとなっています。そうした中、認知症のかたを単に支えられる側と考えるのではなく、認知症とともに住み慣れた地域で穏やかに暮らし続けることのできる社会の実現が求められています。

香芝市では認知症サポーターズテップアップ講座を開催し、本人の希望や想いに寄り添い活動を行うチームオレンジのボランティアメンバーを養成しました。

講座を受講したメンバー同士がチームを組み、令和5年4月からチームオレンジの活動を立ち上げ、その忘れが気になる方やその家族に対し、メンバー一人ひとりがボランティア

活動に取り組まれています。

●チームオレンジ『いいい』ゆるほぐしチャレンジ(いいいの広場)

日時: 偶数月第4月曜日 (祝日の場合は翌日) 14時~15時

先着10名 事前申込制

場所: 総合福祉センター

対象: もの忘れが

気になるかた

内容: 座りながらゆったりとレクリエーションを行い、心と身体をほぐします。一緒に健康づくりに取り組んでみませんか。

●傾聴・チームオレンジ

ほっこりおしゃべりタイム

日時: 毎月第3月曜日 (祝日の場合は翌日)

①10時~②11時

①②各回先着1組

事前申込制

場所: 総合福祉センター

対象: もの忘れが気になるかたやその家族

内容: もの忘れが気になるかたやその家族が抱える悩みをお聴きします。

【申し込み・問い合わせ先】

香芝市中央地域包括

支援センター

TEL 0745-79-0802



つながる通信

全国の事例はこちらからご覧ください。

発行元 「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク  
HPアドレス: <https://www.t-net.online/>